

名戸ヶ谷ビオトープだより

第54号 2013年夏号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

田植えは賑やかです

ゴールデンウィーク後半の5月4日にレンタカーを借りて藤心ライスセンターから苗を引き取り、草取りをして下準備し、もちの田植えを2枚ほど植えました。5日は本番で、好天にも恵まれ、10人を超える会員が参加して田植えの開始です。箆で線を引き、前進植え、後進植えとそれぞれのスタイルで田植えの開始です。苗配りや、苗箱を洗う係と皆さん協力して勤めます。6日に予定している人もいますので、うるち4・5番田を残して終了。翌日の6日には、近所の親子2組も田植えに挑戦しました。深い田んぼに足を取られながらも頑張り、無事午前中で終了しました。お疲れ様でした。(小笠原 智)



足を取られながらの田植え



休憩には、ビオトープで取れた餅米でのお赤飯の差し入れ(影山さん)もあり、話が弾みます



近所の親子2組の田植え挑戦です。「どろんこがチョコレートみたい」



今年は、エジプトガンは来ていません
ゴイサギが餌を漁っていました



新入会員も田植えを初体験しました

稲の生育は、餅イネは順調ですが、
うるちイネは一部分割が悪いです。
(根張り少ない)



春の生きもの観察会

5月18日(土) 10:00～12:00 風薫る5月、爽やかな日となり生きもの観察会を行いました。事前に名戸ヶ谷小への案内配布やちいき新聞掲載により過去最高の参加者で賑わいました。

父兄10名、児童23名の計33名で、松清さんから説明を受け手に手に網を持ちBゾーンのザリガニ釣り場や三角池などを回りワイワイしながら沢山の生きものを捕まえていました。途中2回に分けて捕獲した生きものの説明を受け熱心に聞き入り、定番のアメリカザリガニ、ウシガエルのおたまじゃくし、カダヤシ、スジエビ、そして珍しくカダヤシの中にメダカ一匹もありました。昆虫類ではシオカラトンボのおすとめす、モンシロチョウなど、ハチの巣やオオカマキリの卵などもありました。カダヤシとメダカの違いについては写真を使って話し、外来種の詳しい説明でも父兄を始め十分理された様です。

ホタルの幼虫飼育と放流、そして観察会なども話して約2時間の楽しい生きもの観察会でした。

終わり頃には田んぼにカルガモのつがいが飛んできて、皆を歓迎する如く首をつけ泳いでいました。

当日は合同作業日とも重なり、会員の皆さんも暖かく見守ってくれました。

(藤平 三郎)



メダカとカダヤシはどこが違うのだろう？



みんなでビオトープの生きものたちを探しました



どんな生きものがいたかな？

ハイケボタルの発光が確認できました

春、ビオトープにハイケボタルの幼虫を約 200 匹放流しました。6 月から 7 月にかけてその幼虫が成虫になり、発光を観察できる時期になりましたので、下記の日程で観察会を開催しました。

6 月 30 日（日）の観察会では、月もなく絶好の観察日となり 3 匹の発光を確認できました。

その後 7 月 7 日（日）は 1 匹、それ以降の観察会では残念ながら確認できませんでした。

結果として今年は 4 回の観察会で合計 4 匹の発光を確認でき、それは昨年同数の結果となります。来年も期待したいと思います。

観察会開催日	6 月 30 日（日）	3 匹確認
	7 月 7 日（日）	1 匹確認
	7 月 14 日（日）	雨天のため 15 日に延期、確認できませんでした
	7 月 21 日（日）	確認できませんでした

（藤平 三郎）



6 月 30 日の観察会でハイケボタルの発光を確認した場所

ビオトープと私

坪井 勝 さん



先日の田圃の草取り作業でまたも筋肉痛になった太ももを擦りながら、筆を執っています。

ご近所の田中伸二さんから、仲間と名戸ヶ谷で田圃をやっている、いい運動にもなるので興味があればやってみないかとお誘いをいただき、2011年3月の共同作業から参加させていただいています。以来、作業のあとはいまだに筋肉痛がそこここに出ますが、このところ泥田の中で支えがなくても何とかバランスをとって作業できるようになり、ひそかにその進歩を喜んでいます。

柏市藤心に住まいを定めてから30余年です。当時は回りに雑木林などの緑地もかなりありましたが、近年は住宅地に変わるなどして、どんどん少なくなっています。それでも、春には鶯の音が聞こえてきますし、梢に絡まった山藤の花房を見られるほどの緑地がすぐそばに残っていることをうれしく思っています。

サラリーマン生活を終えてから近所のウォーキングを日課にしていますが、通勤の往復では全く見えなかったのが不思議なくらい、通りすがりの家々の庭木や、街路樹、そして路傍の野草の花々に目が行くようになりました。以来、路傍の野草の花をデジカメで撮って名前を調べたり、また画像を拡大して、自然の造形・配色の妙を楽しんだりしています。田圃やその周りの野草にもきれいな花を咲かせるものがありますね。

サラリーマン時代には仕事で中近東の湾岸諸国へ出かけることがよくありましたが、埃っぽい僅かな緑地を造るのに莫大な費用と労力をかけているのを見るに付け、放って置いても草木が生えてくる土地柄に住む幸運を感じたものです。マンションのベランダのような条件の悪い所でも、どこからか飛んでくるのか、知らぬ間に鉢の隅に新たな野草が育っていることもあります。先日見つけた闖入者はねじ花で、今まさに咲こうとしています。

そんな土地柄でも都市化が進む中では、むしろ人手をかけて水と多種多様な生き物の相互作用をある程度補わなければ、本来の自然環境は維持できなくなっているようで、ビオトープの田圃の作業にもそのような背景があるのではと思います。

柏は、今でも水道水の3割程度を井戸水でまかなえるくらい地下水が豊富で、湧き水周辺の自然は継承すべき柏の原風景の一つだと思います。私自身は、ただ自然に触れながら皆さんとともに体を動かすことを楽しんでいるだけですが、それでも、それがビオトープの保全に少しでも役立っているのであれば大変うれしく思います。

小川 力 会員逝去のお知らせ

昨年の夏頃から病氣療養中でした小川力氏は、去る3月8日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

彼はこの会が発足した時からの会員であり、会の諸事業、特に水田稲作復元事業には深く携わり、田植えや稲刈り作業等には積極的に参加されてきました。又収穫祭にも欠かさず参加されて、座を盛り上げてくれました。

彼のこの明るい人柄と人をそらさない話し方で作業中や休憩時の団欒の一時には回りの雰囲気をやかにし、座を明るくしてくれました。

これからは名戸ヶ谷ビオトープで彼の明るい顔が見られなくなるのは誠に残念ではありますが、お疲れ様でした。安らかにお休み下さいと祈りましょう。

尚、写真は昨年の収穫祭時に写したものです。



名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）下車すぐ

面積：約 4,400 m² 湿性生物：57種 生きもの：125種（内、千葉県指定保護生物 24種）

（2006年、年間を通じて観察した生きものの種類）